

中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人岩手大学

法人番号：09

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育に関する目標 3 優れた点、改善を要する点、特色ある点 (改善を要する点)</p> <p>【原文】 中期計画「博士課程への進学率向上(定員増)を図る」について、連合農学研究科の定員充足率が大幅に超過している状況が続いていることから、改善することが望まれる。</p> <p>【申立内容】 削除願いたい。</p> <p>【理由】 1. 改善を要する点として記載している 「連合農学研究科の定員充足率が大幅に超過している状況が続いている」の部分については、達成状況報告書にデータとして示しているように事実である。ただし、この件に関しては、10月23日・24日に実施された訪問調査時に意見聴取事項として、「連合大学院の充足率が高すぎることの理由と今後の対策を伺いたい」旨の提示があったものである。</p> <p>2. 意見聴取時において、本学として定員充足率が大幅に超過していることは課題として捉え、その対策を講じている旨を説明し理解願ったものであり、その具体の説明の主旨は、次のとおりである。 ○充足率が高いことについては、 ①21世紀COEプログラムの採択により入学者数が増えたこと。 ②周辺に研究機関が多く、キャリアアップを目指す社会人が多いこと。</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 訪問調査時に、連合農学研究科の定員充足率が大幅に超過している状況について、その要因と今後の対策に関して説明を受けたものの、こうした状況がやむを得ないとは判断できないため。</p>

<p>○今後の対策については、</p> <p>①平成18年度に「寒冷圏生命システム学専攻」を創設し、4名の入学定員の増を図ったこと。</p> <p>②平成21年度概算要求において本研究科の4専攻で8名の入学定員増を行ったこと。</p> <table><tr><td>生物生産科学専攻</td><td>6名→8名</td></tr><tr><td>生物資源科学専攻</td><td>8名→10名</td></tr><tr><td>寒冷圏生命システム学専攻</td><td>4名→6名</td></tr><tr><td>生物環境科学専攻</td><td>6名→8名</td></tr></table> <p>3. 評価実施要項によると、訪問調査は「書面調査では確認できなかった事項等の調査を目的として実施する。」旨が、また「評価者は、訪問調査で得られた知見・・・総合的に判断して「書面審査による分析結果」の修正・加筆等を行う。」旨が記載されている。</p> <p>4. 本計画を評価するうえで、訪問調査において、「充足率が高すぎることの理由」、「今後の対策」の確認が必要であったと思慮され、それに関して十分な説明を行ったと考えている。</p> <p>よって、申立内容のように削除の検討を願うものである。</p>	生物生産科学専攻	6名→8名	生物資源科学専攻	8名→10名	寒冷圏生命システム学専攻	4名→6名	生物環境科学専攻	6名→8名	
生物生産科学専攻	6名→8名								
生物資源科学専攻	8名→10名								
寒冷圏生命システム学専攻	4名→6名								
生物環境科学専攻	6名→8名								

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

国立大学法人岩手大学

法人番号：09

学部・研究科等番号・名称：07 農学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 I 教育水準 5. 進路・就職の状況 【判断理由】</p> <p>【原文】 「卒業（修了）後の進路状況」については、<u>・・・具体的な進路状況の記載がない。提出された現況調査表の内容では、農学部が想定している関係者の期待される水準にあるとは言えないことから、・・・。</u>」</p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい。</p> <p>【修正文案】 「「卒業（修了）後の進路状況」については、<u>・・・具体的な進路状況は、提出された現況調査表の内容では、具体的な記述に欠け、書面調査では確認できなかったが、大学情報データベースのデータを根拠資料とすると、学部の特色を活かした職業に就いていることが窺えるなど相応の成果がある。</u>」</p> <p>【理由】 1. 「具体的な進路状況」については、大学情報データベースに入力したデータを根拠とするため、 「主な就職先は公務員、食品産業である」との記述のみで資料の添付を省略したが、根拠資料として使用するためには「資料 A2-2007 入力データ集：No. 4-8就職(職業別)及びNo. 4-9就職(産業別)」参照」の記載が必要であった。 2. 評価実施要項によると、「各学系部会は、書面調査での調査・分析結果を取り</p>	<p>【対応】 意見を踏まえ、判定と判断理由の一部を修正する。</p> <p>【理由】 現況調査表の内容では具体的な記載がなかったが、大学情報データベースで確認できたため、以下のとおり修正する。</p> <p>○判断理由 「「卒業（修了）後の進路の状況」については、<u>・・・具体的な進路状況は、提出された現況調査表の内容では、具体的な記載をすべきであるが、大学情報データベースを確認したところ、学部の特色を活かした職業に就いていることがうかがえるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。</u>」</p> <p>以上の点について、農学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、農学部が想定する関係者の「<u>期待される水準にある</u>」と判断される。」</p> <p>○判定 「5. 進路・就職の状況」の判定を以下のとおり修正する。 「<u>期待される水準にある</u>」</p>

まとめた後に、書面調査では確認できなかった事項等の調査のために、必要に応じて訪問調査を実施します。訪問調査は、達成状況判定会議の各グループが実施する調査の際に併せて実施します。」と記載されている。

3. 1 及び 2 を総合的に勘案した場合、「主な就職先は公務員、食品産業である」という記載に関する「具体的な進路状況」は、書面調査では確認できなかったものの、訪問調査の際に調査が必要な事項であったと思われる。

ついては、主な就職先の具体的な進路状況を大学情報データベースにより再度確認願いたい。